

## 令和5年度第2回躍動カフェ（淡路地域）議事要旨

### 1 概要

- (1) テーマ：淡路島に移り住んで実現する、自分らしい暮らし方・子育て・働き方
- (2) 日時：令和5年7月28日（金）16:00～17:40
- (3) 場所：S BRICK（エス・ブリック）（洲本市塩屋1-1-8）
- (4) 参加者：齋藤知事、淡路地域（洲本市、南あわじ市、淡路市）在住の、子育て世代を中心とした移住者等（観光、農業、起業、子育て支援、移住者支援等の分野で活躍されている方々）（15名）  
※ 移住促進イベントとして、首都圏等の移住関心層が、オンラインで聴講（約50名）

### 2 知事開会挨拶

- ・ 本日は第2回躍動カフェの開催。淡路地域では初めての開催となる。
- ・ 知事就任以来、「躍動する兵庫」を目指して取り組んできたが、この8月1日で丸2年になる。県民の皆さんから直接、お話を伺い、県政に反映させていきたいと考えており、こういった対話の場をどんどん増やしていきたい。
- ・ 今日は皆さん大変お忙しい中、また暑い中お集まりいただき感謝申し上げます。今回は、子どもさんが大勢いらっしゃるの面白い会になりそうで楽しみにしている。
- ・ 皆様ご承知のとおり、淡路は観光も含めて兵庫県の中でも元気がある地域のひとつ。一方で、高齢化や、島内での医療の問題はあるが、今後は、2025年の万博といった明るいニュースもある。本日はよろしく願います。

### 3 意見交換

#### （ファシリテーター）

- ・ 本日のテーマは「淡路島に移り住んで実現する、自分らしい暮らし方、子育て、働き方」。私は淡路島に引っ越してきて約12年、関わりだしてからだと18年くらい経つが、その頃と比べても移住される層が随分違ってきたと感じている。
- ・ 昔はアーティストやクリエイターが、淡路島の魅力を見つけて引っ越してくることが多かった印象だが、最近だとオンラインも社会的に認められるようになり、仕事をこちらに持ってこられるようになってきたこともあるのか、いろんな層の方が引っ越し・移住をされているように感じる。
- ・ （移住された方には）いろいろな目的をもって移住されたと思うが、今日の前半は「移住して実現したことや実現してみたいこと」、後半は「淡路島での暮らしについて」、特に、子育ての関係の方が集まられているので子育ての話聞いていく。

#### （参加者）

##### 【淡路島を都会の若者に紹介する取り組み】

- ・ 私は淡路島にやって来たとき、家も決めずにやって来て、カフェで初めて会ったおばあちゃんに「すみません泊めてください」と言って泊めてもらうような生活から

始まった。そんな状況から考えると、今やっていることは全部「移住して、実現したこと」になる。

- ・ 今、自分を含めて4人呼び込んで一緒に事業をしているほか、一緒に事業はしていないが、知り合い周辺が6人移住し、計10人となった。それだけこの淡路島というフィールドが都会の若者にとって、魅力があるということ。
- ・ 今は「キャリアブレイク」という考え方に興味を持っている。これは1回仕事を辞めて自分の人生と向き合う時間を作るという考え方。この考え方が海外から日本に流れてきていて、淡路島はそのキャリアブレイク期間を過ごすフィールドとしても適していると考えている。いろんな地方を代表して、淡路島がこの流れに乗ることができればいい。
- ・ 今は、淡路でのキャリアブレイク受け入れに向け、古民家を購入したりという準備を進めている。

(参加者)

#### 【カメラを通して見る淡路島の魅力】

- ・ 元々私自身、映像やカメラの仕事がしたいと思っていたが、淡路島だとそういう仕事ができないと思い、一度島を離れた。しかし色々な巡り合わせがあり、大阪で働いているときに淡路の良さを再発見した。この島の魅力を自分なりに伝えることができないかと思ったのがきっかけで島に帰ってきた。
- ・ 今は洲本市のケーブルテレビで、地域密着型で仕事をしている。例えば、洲本市内の保育園のイベントや、市内で開催される祭りなどを多く取り上げている。その中で、地域の人とより密接に関われるのが今の仕事の魅力である。

(参加者)

#### 【淡路ラボでの活動】

- ・ 「淡路ラボ」は、以前は、若者と事業者をつないでいたが、今はシーズン2として、社会人をターゲットに、新しい生き方、働き方をどんどん発信していきたいと考えている。その取組の一つとして、「淡路島100人インタビュー」というのを始めた。
- ・ これは、私のような、大学を卒業してこれから就職するかどうかと悩んでいる人たちに向け、淡路島の面白い人たちを取り上げ、「こういう生き方もあるんだ」「こういう価値観もありなんだ」というのをどんどん発信していくもの。

(参加者)

#### 【淡路島が様々な「学び」の場となる】

- ・ 環境学習をやりたいと思っていたとき、ビーチクリーン活動をしていた中で、絶滅危惧種の千鳥を研究している大学院生に出会った。そこから「淡路島ちどり隊」という活動を始めた。これは、絶滅危惧種になっているシロチドリを調査するというとても地味な作業だが、地元の人たちに聞くと、昔は100羽単位で飛んでいたという話も聞いた。
- ・ この活動は年配の方も子どもたちも関わりながら活動できるし、生き物を知ること

で今の地球環境を知るなど、とても学びになる。最近は淡路市の学校で環境教育をする機会もいただいた。

- ・ 私が一番大切だと思っているのは、淡路島が好きだという気持ちを育んでから、こういう問題があるということに目を向けること。身近な生き物とか、今あるものを好きになるためにはどうするかというところからプログラムを考えている。

#### (ファシリテーター)

- ・ 私も企業研修などを行っているが、たしかに島の色んなものが学びになる。
- ・ ここまでは様々な切り口で淡路島に移住されているとか、もう一度、戻ってきた方々のお話を聞いてきたが、県では現在「ひょうごフィールドパビリオン」という取組を進めている。知事からこのフィールドパビリオンについてご紹介をお願いします。

#### (知事)

- ・ 「ひょうごフィールドパビリオン」は2025年の万博に向けた取組。万博自体は大阪の夢洲で行われるが、そこでのパビリオンとは別に、兵庫県にはすごいところがたくさんあり、すごい取組をしている人が大勢いるので、兵庫県全体をパビリオン、その現場そのものをパビリオンに見立て、発信していきたいと思った。淡路島だと、淡路瓦の生産現場や、南あわじの沼島のクルーズ体験など。仕事や文化等、素晴らしい取組があるので、これを将来に向けてしっかり繋いでいこうという取組である。
- ・ サステイナブルな取組をされている現場そのものをパビリオンと見立てて、そこにお客さんに来てもらう。いわゆる体験型教育ツアーがやればいいなと思っている。去年6月くらいから応募を始めて、最初は誰も手をあげてくれなかったらどうしようかと思っていたが、蓋を開けたら130以上のプログラムの応募があり、認定を受けている。その人たちといろいろやって行こうかなと思っている。淡路でも沼島のツアーや農業体験も手を挙げてくださっている。
- ・ この「ひょうごフィールドパビリオン」は、関西でどこもやっていない独自のプロジェクトであり、しっかり進めていきたい。

#### (ファシリテーター)

- ・ 私も観光の仕事をしているが、ただただ自分の住んでいるところを自慢するだけで、人に喜んでもらえるというのは、仕事をしてすごく嬉しいと思う瞬間。

#### (知事)

- ・ 今年中にこのプログラムを全部回りたいと思っている。どれもすごく面白くて、それぞれの地域でいろんな方々が、地域資源などを活用しいろんなことに取り組んでいる。そして、それを新しい時代に合わせ、変えていこうと取り組まれている。万博でその姿そのものを発信したい。こういう人たちは地域のローカルヒーローだと思うし、こういう人たちが主役になるようなフィールドパビリオンを県内各地に増やしていきたい。

(参加者)

**【移住者を呼び込み集落単位での経済活動の促進】**

- ・ 地域おこし協力隊をやってきたときから、新規就農したい人も含めて就農支援をしてきた。悩みを聞きながらやっているが、淡路島に移住する魅力は十分ある。
- ・ よく「いいところと悪いところ教えてください」と聞かれるが、それを言ったらキリがない。もちろん悪いところもある。それでも来たいという人はいるが、農地はあるけど家はないということで就農を諦めている人も結構いる。
- ・ 例えば、私が今やっているところはいわゆる限界集落で、集落を維持するのに人が必要だが、農業振興地域なので家を建てることができない。
- ・ 空き家はあるが、なかなかそれが使えない。だから人が増える要素がなく、そこに悩んでいる。そこで、地元の人3名と移住者3名、そこに近畿大学の先生にも入ってもらって「宇谷の未来を創る会」を発足して、なんとか家を用意できないか、宇谷の魅力を発信できないか、農地を守れないか、ということを考えている。
- ・ まずは、人がきてくれること。私たち1世帯が移住してきただけで町内会長から「きみたちは宇谷の希望だ」メッセージが来るくらい、1世帯入るのは大きい。子どもが生まれたら集落単位で祝ってくれる。市や県と一緒に取り組めたらありがたい。

(参加者)

**【空き家問題を起業により解決を目指す】**

- ・ 今の話にもあったように、移住や、島で子育てをしたいという人はたくさんいるが、家の供給が足りない。私が今やっているのは、空き家をどう活用するか、空き家の掘り起こしをしている。不動産屋で取り扱ってくれないような物件、市場に出にくいような物件を誰かに使ってもらえるように、片付けやリフォームをするなど、移住者の方とマッチングするような仕事をしている。
- ・ 「移住したい」という思いは素敵なことだし、私自身、子どもに自然の中で遊び尽くしてほしいという思いで移住した。私のその思いは叶うことができたが、そういう人はまだまだたくさんいると思うので、空き家を使わない手はない。
- ・ 埃まみれになりながら家を片付けて、誰かに使ってもらえるように活動している。

(知事)

- ・ 空き家の中で、実際使われてない、もっと掘り起こされるべき空き家は全体の何割くらいある感じか。

(参加者)

- ・ 私の感覚だが、空き家のほとんどがそうじゃないかと思っている。
- ・ 市場に出てくる物件はほんの一部で、それより前の段階で止まっているのがほとんどじゃないかと思っている。

(参加者)

**【空き家の掘り起こし】**

- ・ 私は空き家の掘り起こし活動をしているが、移住相談に来る方は、「空き家＝貸してもらえる家」と思っている人が多い。しかし必ずしもそうではなく、空いているけど自分が生まれたところだから手放したくないとか、近所の手前、といったそれぞれの事情があり、使えないことも多々ある。空き家率が高く、住みたい方がいるのになかなか実際の移住に繋がっていかないというのは、そのあたりの事情もある。
- ・ 掘り起こしをやっていて思うのは、「空き家バンク」という制度を3市とも使っており、探される方は空き家バンクを見て探される方が多いが、家をもっている側は空き家バンクの制度を知らないということがある。チラシを作るとか「淡路島住みます芸人」の芸人さんと一緒に空き家の掘り起こし活動をしたりして、まだ周知活動をしているような状態。これを3年くらいしてきて、最近は徐々に空き家バンクという言葉が普及してきたようには感じている。

(知事)

- ・ 空き家のオーナーは、空き家の近くに住んでいる人が多いのか、それとも東京とかの遠方にいる人が多いのか。どんな状況か？

(参加者)

- ・ 正確な割合は分からないが、どちらも多い。

(知事)

- ・ オーナーが近くにいるかどうかでやり方が変わって来ると思う。例えば、相続で島外の方がオーナーになった場合はポスティングしても伝わらないとかもあると思うがどうしているのか。

(参加者)

- ・ おっしゃるとおり、連絡が届かないこともある。最近は固定資産税の通知に空き家バンクのチラシを入れた。結構効果はあったと感じている。

(知事)

- ・ それは地元の自治体などと連携してか。

(参加者)

- ・ そのとおり。「困りごとがあったら相談ください」といったこともチラシに書いている。

(知事)

- ・ 県内だと丹波も同じように移住が増えているが、同様に空き家の供給問題がある。
- ・ おっしゃられたように、新築するよりも今の資源を活かし再利用したほうが、SDGs的な観点からも望ましい。空き家の掘り起こしについては我々も考えたい。

(参加者)

**【最近の移住相談】**

- ・ 最近コロナが落ち着いて、5類に移行されたあたりから、1歳、2歳の小さなお子さんがおられるご家族が相談に来られている。しかもかなり遠い地域から来られている。最近も九州や神奈川、関東、名古屋の方たちが、「自然豊かなところで子育てしたい」ということで面談に来られた。
- ・ 今までだとカフェをしたいという人が多かったが、リモートワークが仕事として確立してきた影響なのか、最近では、一般のご家庭の方が、子育てを自然豊かなところでしたいということで、“動き出した”感がある。
- ・ 最近よくある質問としては、淡路島は都会とはかなり違うということもあって、「公園が少ないと聞いたが子どもの遊び場はどうしているのか」「お母さんたちのコミュニティはあるのか」など、“暮らす”ことを念頭に置かれている。賃貸物件や、中古物件の話よりも、子育て世代にとっては、まずは子どもが育つ環境がどうなのか、待機児童がどうなのかとか教育環境の事情についての質問が多い印象だ。

(ファシリテーター)

- ・ 私は「淡路島ならやりたいことができる」と思って引っ越して来たが、やはり最近では違ってきているということかと思う。
- ・ ちょうど、県では「淡路島子育てスタートブック」というものを作成されていると伺っている。知事からご紹介をお願いしたい。

(知事) ※手元に「スタートブック」を掲示

- ・ これは、私が知事に就任した後、パソナさんとも意見交換をし、パソナの社員さんたちが島外から移住してくるにあたって、知りたい情報がひとつにまとめられたものがないということで、淡路島で子育てをするに際して必要な情報を体系的に整理したもの。パソナの方々とも意見交換しながら作成した。
- ・ 書かれている情報は、すごくベーシックな内容。市内に小・中学校や高校がどのくらいあるかとか。またお出かけスポットについても書いている。新たに作成したものなので、関心のある人に渡してもらえたらありがたい。
- ・ これはいわばトライアル的に作成したものなので、もっとこうしたらいいとか、後日でもいいのでまたご意見いただきたい。

<参考：[「淡路島子育てスタートブック」へのリンクはこちら](#) (R5.9月末時点) >

(参加者)

**【ひとり親プロジェクトでの移住】**

- ・ 私は、以前は大阪駅の近くに住んでいたが、都会での子育てに行き詰まっていた。また、昔から島暮らし・海のそばで暮らすことに漠然とした憧れがあったこともあり、淡路島で家を探した。
- ・ ここはイメージしていたより都会。もう少し田舎暮らしをイメージして来たので、初めはもう少し田舎がよかったなとも思ったが、一本道を外れればど田舎に行ける

し、都会が恋しくなればすぐ都会にも行ける。移住・田舎暮らしに憧れている人には気軽に移住ができやすい場所第1位ではないかと思う。

- ・ 想像していたほど買い物に困ることもなく、コープや Amazon で配達してもらえり、近くの産地直送市場で買い物もできる。日常生活では特に不便を感じたことはない。

#### (ファシリテーター)

- ・ 私は、妻が兵庫県の中山間部出身だが、淡路島に引っ越してきたとき、「こっちはピザも届く。意外と都会だ」と感動していた覚えがある。意外と都会な印象はある。

#### (参加者)

##### 【淡路島での子育てについて】

- ・ 私は、大阪と淡路島の2拠点で暮らしていたが、子どもが生まれたときはさすがに1人だときつという事で夫が住んでいる大阪の家に住んでいた。そんな中でコロナ禍になったが、電車など公共交通機関で0歳児を連れて歩くのは、とてもしんどかった。
- ・ 駅は階段があるし、バスに乗るとあからさまに嫌な顔される。抱っこしてベビーカーを押して、タッチして下りるとするのは無理だなと感じた。
- ・ 夫の仕事がリモートになったことで、すぐ島に来た。車を使うようになった瞬間、とても楽になった。
- ・ カフェがあるとか、買い物がするところがたくさんあるといった都会ならではのよさはもちろんあるが、子育て期においては全く必要ないと思った。
- ・ 車で移動できるのはとても大きい。買い物時においても、おむつなどは嵩張るし、コロナ禍でもあったので、誰にも会わなくて済むためストレスなく生活できた。
- ・ 子育て世代には是非来てほしいなと肌で実感した。子どもがもう少し大きくなってきて、教育環境や習い事などの機会が提供できるか、習い事となると選択肢が少ないという話は聞く。そのあたりが気になっているところではあるが、少なくとも今、3歳までは、とてもよかった。

#### (知事)

- ・ 今日はフリーランスの方が多いと思うが、リモートで仕事ができるように急激になってきたことが、移住のきっかけになっていると思うが、リモート環境の普及は大きいか。

#### (参加者)

- ・ リモートで仕事ができるというのは大きい。私自身リモートワーカー向けのシェアハウスを運営している。島外でリモートワークしている人が来た時も、淡路島の環境を気に入ってくれる。スーパーとかも困らない。リモートワーカーたちは「仕事のリフレッシュ」というのを重視されている。
- ・ シェアハウスは慶野松原で運営しているが、外に出ると松林を散歩でき、海もあって、近くには温泉もある。食べ物もおいしく、静かで仕事もすごく捗ったという感

想をいただいている。私自身もリモートワークの恩恵を受けてフリーライターができています。パソコンがあればどこでも、旅行先でも仕事ができる。そうすると、生活のベースである、食べ物とか環境とか見て気持ちのいい景色とかのほうが大事故だし、コンクリートジャングルに住まなくてもいいと思った。

#### (知事)

- ・そこがさきほどの話にもあった、昔はアーティストとかクリエイターが多かったのが、最近では、フリーで仕事ができる人、したい人が増えてきているという感じなのか。それが口コミで広がっているということだろうか。

#### (ファシリテーター)

- ・そうだと思う。私自身、移住者の先輩として相談に乗るという取組に参画させてもらっているが、そういう相談に来る方は、「仕事はリモートなのでどこでも大丈夫です」という人が多い印象。会社に勤めながら淡路島に移住される方が増えたように感じる。

#### (知事)

- ・教育の問題については、これから兵庫県は、かなり力を入れていきたいと思っている。淡路島内にも県立高校が5つあるが、ここの環境の整備と、学力・スポーツのレベルアップを徹底的にやっていきたい。
- ・県内の県立高校全体で、これからの6年間で300億円の予算を投じて、部活動の応援や体育館の冷房等の設置に投資をしていこうと考えている。それと合わせて、国際的な英語教育、スキル教育、ハイレベルな教育を県立高校でもしっかり受けられる環境整備をしていきたいと思っている。
- ・昨日、社高校が甲子園出場を決めたが、ここも県立高校。これからの時代は、私立高校に高いお金を払って行くという選択肢以外に、公立高校でもしっかり勉強・スポーツができ、グローバルにもつながっていく環境を作っていきたい。淡路の中で、高校までしっかりと勉強も進学もスポーツもできるようにしていきたい。期待していただきたい。

#### (参加者)

##### 【淡路島での教育環境について】

- ・さきほどの参加者の話を聞きながら私も同じことを感じていた。「子どもが小さいうちは淡路島すごくいいよ」と周りからも聞くことが多い。実際住んでみて、子どもを美術館に連れて行きたいなら神戸にも近いし、普段暮らしている町中では、島の人たちは、子どもの出す音に対しても優しい。山の中では集落のみんなが喜んでくれる。
- ・一方、だんだん大きくなり、習い事のことを考えるようになると、習い事の選択肢が少ない。
- ・また大きな書店や図書館もないので、子どもが将来大きくなったとき、自分の世界を広げてくれるものと出会う機会をどう確保するかというのが難しい。



- ・ 小・中学生くらいまではそういうものと出会う場には大人が連れて行くものだと思うが、高校生にもなるとそういうものは自分で出会って見つけていくべきだと思っている。そうなったときに、子どもや自分たち家族がどこで暮らしていけばいいのか不安だったりする。
- ・ でも、「成長するまで」ということで考えるととてもいいところ。
- ・ 「文化資本」という考え方があるが、淡路島には、豊かな自然がある。また、それを楽しんで紹介してくれる植物の先生も身近にいる。私自身、植物の先生やアーティストさんと毎月森の散策をしている。豊かな自然と、周囲にその楽しみ方が分かっている大人がいること自体が淡路島の豊かな文化資本で、すごくいいと思っている。

### (知事)

- ・ 環境教育もそうだが、淡路は都会と違い、様々な素材があって、探求や、子どもの興味・好奇心を育めるフィールドが、都会より豊富。そういう意味では多様な選択肢があるところだと思う。
- ・ 教育という場面でも色々提供できるようにしていきたい。淡路で勉強もスポーツもできるし、場合によっては海外ともつながれるような体験、留学もできるといった、パブリックなスクールの中でも十分な教育が提供できるようにすることは絶対やっていくべきだと思っている。
- ・ また、学校が拠点となって、本日ご参加のみなさんが活動されているような団体とつながりができれば、色々な価値観を子どもたちが学べるし、多様な生き方を子どもたち、学生たちが知ることになる。わざわざ東京とか都会に行かなくても、自分のライフスタイルを見つけることができれば、地元定着につながる。
- ・ 例えば、県立高校とみなさんが交流するような機会を増やせば、逆に淡路島の魅力を発見してもらえる機会になると思う。

### (参加者)

#### 【不妊治療について】

- ・ 夫も私も東京育ちなので、こちらの日常が全部「非日常」であり、移住して8年目になるが、週に1度は「移住を決断して本当によかったね」という話をしている。私が夫を巻き込んだ形だが、今は私より夫の方が満喫しているような状態。コンビニに行く感覚で海に行けるとか。
- ・ 地元の人がとても優しいのは非常に大きい。子どもにとっての実の祖父母は東京に置いてきている状況であり、そこは少し心配だったが、行きつけのお店とか、町内会の人とか、みんな自分の孫のように子どもをかわいがってくれる。親戚のおじちゃんおばちゃんは何十人もいるような感覚の中で育てられている。
- ・ ただ、実は2人目の出産は諦めている。1人目は7年待てる時間があったが、1人目が落ち着いて、最初は2人目欲しいよねという思いもあって、年齢も年齢で時間ももうないので、不妊治療に踏み切ろうとなったが、不妊治療は結構大変。島外に高頻度で通う必要があるし、不妊治療中は体調も優れない。1人目の子のケアも考えると厳しい。

- ・ 1人目の出産のときに、ハイリスク出産だったので、神戸市民病院（神戸市立医療センター中央市民病院）で出産した。そのときも淡路島との往来が結構大変だったので、2人目が妊娠できたとしても、通院とかを考えると二の足を踏んで諦めたという実態がある。
- ・ 若い方でハイリスクではないならあまり気にならないかもしれないが、テレワークが進んでどんなキャリアの人も好きなところで好きな仕事をできる時代になったとき、日本全体で考えると、多自然地域における不妊治療の問題は考えていくべきだと思う。諦めるのはとてももったいない。
- ・ 淡路島に限らず、忙しく働いて、キャリアを積んでいる人ほど、この不妊治療の（厳しい）環境は心に響くと思うし、今後の課題かなとは思っている。

### （知事）

- ・ 不妊治療についてはこれから力を入れてサポートするべきだと考えている。
- ・ 私自身も少し不妊治療の経験があって、5年くらいかかった。最初に不妊治療をしたのは新潟県の佐渡島にいたとき。本土にフェリーで通って、なかなか大変だった。
- ・ 県内どこに住んでいてもそういった治療が一定程度受けられやすい環境を作っていくというのが今後のテーマのひとつ。
- ・ 本日、この会場に来る前に、不妊治療をされている当事者の方たちと意見交換をしたが、その人たちも神戸市内のクリニックに通っているということだった。
- ・ ハイレベルな治療になると都会のクリニックに行かざるを得ない。そういった医療機関を淡路島に持ってこれるかということ、これはこれでハードルが高い。
- ・ 交通費の問題や、休みがとりやすいとか。そういったところをどうしていくかが少し課題だと思っている。
- ・ 淡路島で治療をされている方は、神戸・阪神間に行かれている方が多いと思う。島の中で治療するよりも、そのほうが良いという声、環境を変えたほうが良いという声もあるようだ。
- ・ 一方で、交通費の問題や休みのとりやすさとか、ハードルはあるので、そこをどうサポートできるかというのは今後大事なテーマとして考えていきたい。
- ・ 最近では、結婚するかどうか、子どもを産むかどうかなど、いろんなライフスタイルがあると思うが、結婚して出産を希望される方をいかに支援できるかしっかり考えていきたい。
- ・ また、出産環境の整備も大事で、産科医療は地方に行けば行くほど厳しくなっている。どう対策を講じられるかを考えていきたい。

### （参加者）

#### 【淡路島の子育て支援について①】

- ・ 私は2022年2月に「移動型まちの子育て広場」を始めたが、その前から個人のサークルみたいな形で、「私らしく淡路島で生きるお話し会」というものを実施していた。
- ・ 2022年11月が5回目、南あわじ市の守本市長を交えて懇談会をさせてもらった。
- ・ その際、せっかく市長と話ができるんだからということでアンケートを実施した。

起業してるママとかではなく、普通の主婦がアンケートを作って、友達に回して、「淡路島での暮らしをどう思ってる？」というのをまとめた。

- ・ 母数は23名。数は少ないが、記述式での回答がメインで、先ほども参加者と話をさせてもらったときに共感いただいたりもした。このアンケート結果を南あわじ市役所の関係部署に配布していただき、市役所との意見交換とか、高齢者との子育てマッチングをしているが、そことどういった形で関わっていけるかというお話を、去年させてもらった。

#### (ファシリテーター)

- ・ アンケートをとられて、ここはポイントというのがあればぜひ教えていただきたい。

#### (参加者)

- ・ さきほど話に出ていた、学習の環境や、産婦人科、婦人科がないこと。
- ・ また、私自身一昨年、入院して手術をすることになったのだが、明石の病院に行かなければならなくなった。私は長崎県、夫は栃木県出身であり、つてがない状態で、娘がファミサポ（ファミリーサポート制度）に預けられない年齢。どうしても夫がまとまった休みを取れるときにしか手術ができず、病院にピンポイントで頼み込んで入院し、面会もできない時期だったので、一人で橋を渡って帰ってきた。
- ・ 医療とファミリーサポートというものが国の制度としてありながら、機能していない。一番助けてほしいのは、子どもが0～1歳のとき。これまで子育てしてきた方たちなら安心して任せたいという気持ちがある一方、移住者だからこそ、そこをお願いしにくくて、淡路島の方たちはおじいちゃんおばあちゃんたちがいてそこで賄っている。だからファミサポの運用・動きも鈍くなってしまうのかなと思う。
- ・ 誰かに頼りたいし、リフレッシュのために子どもを預けたいというママの思いがこのアンケートにも出ていたと思う。

#### (参加者)

##### 【淡路島の子育て支援について②】

- ・ 私も、結婚して5年間は子どもができず、不妊治療で神戸まで通っていた。移住してきたときは周りに友達も親戚もない。夫はいわゆる泊まり勤務なので、出産後はワンオペ育児が多かった。
- ・ 私がお世話になった「淡路市子育て世代包括支援センターおむすび」では、神戸や明石の子育て支援センターなどの都会の施設と大きく違って、ほぼマンツーマンに近い形でスタッフがついて話を聞いてくれる。悩みがあれば聞いてくれ、必要があれば専門機関を紹介してくれる。それ以外にも日常の愚痴とか、子育て以外の話も聞いてもらえた。そこの代表は“淡路島のお母さん”、上司は“淡路島のお姉ちゃん”みたいな存在で、スタッフと家族みたいな関係になれるというのが非常に魅力的な団体。
- ・ 夫は転勤で神戸に戻ったが、ここを離れるのが寂しいということで、淡路に住み続けている。

(知事)

- ・ 不妊治療の通院となると島外に行かされている方が多い。お二人とも神戸に行かれています。神戸の病院にした決め手とかがあれば教えていただきたい。「そもそも島内に医療機関がない」、「神戸にいいところがあるから」とか。

(参加者)

- ・ 南あわじ市に1軒あるとは聞いたことがあるが、距離的にそちらより神戸の方が近かった。また、神戸の病院の方が高度な医療が受けられると聞いた。

(参加者)

- ・ 私は三宮にある、日本でも最先端の治療ができるというクリニックに通っていた。

(知事)

- ・ 通ってるときに大変だったなということはあるか。

(参加者)

- ・ やはり遠いので時間と費用（交通費）がかかる。私は淡路島の真ん中あたりに住んでいるが、それでも三宮まで片道1時間半、交通費だけで往復3,000円以上必要。ときには1回行って、また明日も来てと言われることもあった。そうすると交通費だけで7,000円。そこにさらに治療費ということになり、金銭的な負担がきつい。
- ・ 治療にしても仕事にしても、例えば船とか、神戸と淡路をもう少し早く行ける（短く繋げる）手段があると治療も通い安く、仕事もしやすくありがたい。引っ越さなくても済む。

(参加者)

- ・ 往復の費用（交通費）の問題はたしかにある。
- ・ 私はフリーランスだったのでまだいいが、周りの友人はあまり口外せず、こっそり島外まで行っている。
- ・ あと職場環境。都会の大企業ならそういった治療に寛容なところも多いのかもしれないが、制度や気持ちの面としても仕事を休んで治療に行くということへの周囲の理解が深まればありがたい。

(ファシリテーター)

- ・ 今日は移住のイベントということで、オンラインでも50人くらいにご視聴いただいている。事前に質問をいただいているので、こちらからいくつかご紹介させていただく。回答者は私から指名させてもらうので、ご回答をお願いします。
- ・ まず1つ目は神奈川県20代女性から「10月から淡路島に単身で移住予定。移住前に知っておいた方がいいことや、移住後に気づいたことがあれば教えてほしい」ということだが。

(参加者)

- ・ まず、「いろいろ調べていてもそれが全部合ってるとは思わない」というメンタルセットを持つこと。現実と想像は違う。「郷に入れば郷に従え」ではないが、何が来てもそれを受け入れるテンションを準備しておくことが重要。
- ・ 移住後に気づいたことは、「あらゆるハプニングは結構楽しい」ということ。困っていたら私の Instagram とかにメッセージ送ってくれたら相談に乗ります！

(参加者)

- ・ 足りないものがあれば Amazon やコープ等で調達ができるので物資面であまり困ることはないと思う。先ほどの話にもあったように、マインドの面は大事。
- ・ 先ほど、車があってすごい助かったという声もあったが、車はどうしても必要。

(知事)

- ・ ちなみに、もともと車の免許をもっておられた方はどの程度いますか  
(※ほぼ全員が手を挙げる)
- ・ こちらに来てから免許を取得したという方はどれくらい？  
(※ほとんどいない)
- ・ そういう意味では、車が前提というのは共通した理解ですね。

(ファシリテーター)

- ・ 続いて、大阪府 40 歳代女性の方から「淡路島には子どもを気軽に遊ばせる公園が少ないと聞いたことがある。どのようなところで遊ばせているか」
- ・ 兵庫県 30 代女性の方から「子育て世代の週末の過ごし方を教えてほしい」

(参加者)

- ・ 「公園が少ない」というのは、確かに移住してから「あ、こんなになんだ」と感じた。ただ、車で 5 分も行けば小さな公園はある。
- ・ 今週末は息子と虫取りイベントに参加するし、先週末はレンタル農業という形で農園を借りていて、息子となすびやオクラを植えてきた。
- ・ 他にも淡路島に移住したらやってみたかったことがたくさんある。それをやっていたら案外忙しいし、イベントも結構ある。それをすべてやっていたら時間が足りないくらい。公園じゃなくても海がある。

(参加者)

- ・ 我が家では夫と隔週で、片方が子どもの面倒を見て、片方が一人の時間を作るようにしている。私が子どもの面倒を見るときは、淡路島にはカフェも多いので、娘と一緒に新しくできたカフェに行っておいしいものを食べ、帰りに海に行くなどして過ごしている。
- ・ 他にも、家庭菜園や、近所で畑を借りていて、一緒に野菜の苗を植えて、収穫して

いる。そのおかげなのか、子どもに自分でトマトやきゅうり取ってこさせると、自らその野菜を食べるようになってくれた。

#### (ファシリテーター)

- ・ 千葉県 40 代女性の方から「ヨガの資格を活かした仕事をしたいと思っている。個人でも起業しやすい雰囲気はありますか」ということだが。

#### (参加者)

- ・ 淡路島でヨガの起業は多い気がする。海辺でビーチヨガをやってる人とか、近々南あわじで大きなイベントがあるとも聞いた。ヨガをされる方は起業しやすい雰囲気はあるんじゃないかなと思う。
- ・ 起業にあたっては、南あわじ市や県の補助金もある。私自身も女性起業家の補助金を活用させてもらった。そういう意味では制度もあって、やりやすい雰囲気だとは思っている。

#### (知事)

- ・ 今日参加いただいた皆さんは、フリーランス、起業をされる方が多い。フリーランス、起業しながら子育てとかを楽しめる。そこも淡路ならではのライフスタイルの一つかなと思う。
- ・ 淡路島に住むメリットがデメリットを上回っているから、皆さん住んでおられるのだろう。
- ・ 公園よりも淡路にはすごいところ、例えば慶野松原とか自然が素晴らしいところがある。先日、子どもと猪名川で初めて釣りをしたが、気軽に釣りができるところもなかなかない。そういうのを気軽にできる、そのあたりも淡路ならではの魅力だなと思う。
- ・ (スタートブックに) 起業支援のプランも入れておくのもよいのかもしれない。
- ・ 起業される方、フリーランスの方も淡路は多い、増えてきているのでしょうか。

#### (ファシリテーター)

- ・ 私も起業した側だが、失敗しても怒られない、被害もないのは気が楽ではある。

#### (知事)

- ・ 淡路島で起業する際やフリーランスならではの困ったことはあるか？

#### (参加者)

- ・ どこでも一緒かもしれないが、初めてなので不安。ただ周りのサポートがある。もし失敗しても周りから食べ物をもらえたりというのもあり、食いつぶれる心配もない。周りにもたくさん起業している人がいるので安心感もある。淡路特有の困ったことというのはあまり思い浮かばない。

(知事)

- ・ 色々とお話を聞いていて思ったが、起業をされている人は腹を括ってるというか、たくましい。そういう人たちが移住してくるのに適している地域なのかなと思う。

(ファシリテーター)

- ・ 周りに同じような方が非常に多く、「ああこんなもんか」というのもあり、そういうのが間近で見られる、というのはやりやすいんじゃないかなと思う。
- ・ オンライン説明会をお聞きの皆様に知事からメッセージがあれば、お願いしたい。

(知事)

- ・ 今日はオンラインで参加いただき感謝申し上げます。
- ・ 様々な課題とかも挙がったが、教育とか、県立高校の充実はしっかりしていきたい。子どもが小さいときには自然を楽しめるが、子どもが小学校、中学校、高校と大きくなったときにどうなるのかという部分は不安かもしれないが、これから力を入れていく。淡路で高校教育が受けられて、進学・スポーツのほか、海外にも挑戦できるような、高校の環境整備はぜひやっていきたい。
- ・ そこはご安心いただけるように頑張っていきたい。

(ファシリテーター)

- ・ 今日は「移り住んで実現する、自分らしい暮らし方・子育て・働き方」というテーマで話をしてきた。私自身こちらに引っ越してきて10数年経つが色々変わってきたと思ってはいたが、今日初めてお会いする方もいて、話を聞いて改めて「変わったな」と思った。
- ・ 地域にいて、変わらないものがある素敵さとリスペクトはあるが、同時にいろんな方がいて、それを受け入れ、少しずつ変わっていくところもあり、ともに進めていく地元の方がいて、そういう地域に暮らせていることに喜びを感じている。
- ・ このまま、もっと面白い淡路島になったらいいなと思う。
- ・ 最後に知事、ご挨拶をお願いしたい。

## 5 知事閉会挨拶

- ・ 限られた時間でしたが、本当にありがとうございました。
- ・ それぞれ皆さんがいろんな立場やフィールドである意味、エンjoyしながら、淡路での暮らしや様々な取組をされていることがよく分かった。
- ・ 空き家の掘り起こし（提供・供給の問題）、医療の問題、教育環境、ビジネスをされている人が、より集まりやすい環境だったりといういろんな課題も分かった。
- ・ 淡路島の人気はどんどん高まっており、魅力あふれる地域の1つだと思う。もっと可能性を広げていけるように取り組んでいきたい。
- ・ みなさん楽しみながらたくましく生き抜いておられることもよく分かった。そういったところも発信していきたい。本日はありがとうございました。